

令和7年度第2回石巻市総合計画審議会 会議録

■日 時 令和7年6月12日（木） 14時～15時50分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

- ・委員数20名に対して13名が出席しており会議は成立

2 開会あいさつ

（会長あいさつ）

前回まで皆様方からたくさんの御意見をいただき、それを事務局で取りまとめ、中間案を作成いただきました。その内容について議論いただき、よりよいものにしていただければと考えていますので、今日も忌憚のない御意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議題

（1）第2次石巻市総合計画後期基本計画（中間案）について（資料1、2）

①第1編について

（委員）

これまでの議論の中で、4つの重点施策として課題を整理したものの、どこが一番大事なのか、100頁以上にわたりたくさん書いてありわかりづらいので、ぜひ重点施策が表示できるようマトリックス等により分かりやすく表示いただきたいと思います。

次に、人口フレームについて、人口が減るということを前提にまちづくりをしていく必要があると思います。国の施策の地方創生2.0が出たとしても、グラフの青線に戻るかというと多分そうではなく、ほかの考え方を取り入れていく必要があると思います。市長も改選後にお話しされており、地域おこし協力隊でも考え方に合致する方が任命されていますが、二地域居住なども取り入れていく必要があると思いますので、少なくとも、後期計画は前期計画のつながりで、一定程度、政策や課題は決まっている部分がありますが、新しい分野も課題を整理していく中で、取り入れていくとよいのではないかと思います。

（事務局）

まず、重点施策等について、計画書上で分かりやすく表現する必要があるということですが、これは最終案に向けて、重点施策で整理した4分野については表現できるように改善したいと思っています。新しい取組については、この後第2編で説明いたしますが、今後庁内において検討の上、5年後の目標達成に向けた新しい取組につい

て追加してまいりたいと思っています。

(会長)

概要版でも良いので、第1編第3章について、時代の潮流と進捗状況、重要施策のつながりが、ビジュアルで見える方が良いのではないかと思います。

②第2編について

(委員)

指標の数字については仮置きで書かれていると説明がありましたが、例えば30頁のイクボス宣言の企業数が現状24社で、5年後の目標が10社と設定されておりますが、普通に考えると、毎年イクボス宣言をしていく会社が増え、最終的に増加することを目指すということだと思いますが、数字についてはあまり考えないほうが良いのでしょうか。

(事務局)

このイクボス宣言については、表現を内部でも検討しなければならないと思っています。単年度の数値目標と累積の数値を整理しながら表現したいと思っています。当初は累積の数値だけと思っていたのですが、一旦その目標を超えてしまうと、次年度以降は全て目標達成ということになってしまうので、その辺は整理をしながら、表現をしていきたいと思っています。

(委員)

67ページの総生産額（第2次・第3次産業）の目標設定について、現状値が令和4年度で498,240百万円に対して、5年後の目標値は397,052百万円と減じている一方で、70ページの漁業生産額及び水産加工品出荷額は、現状値が68,059百万円に対して、5年後の目標値を80,000百万円と増やしています。水揚げ量や加工品の出荷量も増えています。一次産業と二次産業の違いが当然あるとは思いますが、一次産業が増えれば二次産業も増えるような気がします。減る目標と増える目標の関連性がよく分からないので、教えていただきたいと思います。

(事務局)

67ページの指標については、2次産業、3次産業のまとめになりますが、現状値から考えると、事業者数や生産額等が減少しているという現状値から、令和12年度の単年度の目標を設定したということになっています。また、70ページの指標については、一次産業の生産額となります。現在は上向きの数値で整理をしていますが、現状値を踏まえ、庁内においてさらに精査をした上で、注意して設定したいと思っています。

(委員)

109ページの財政調整基金の残高の目標設定について、現在は62億円あり、5年後の目標は20億円残すという目標になりますが、単純計算すると1年に8億ずつ切り崩していくという計算になります。そこからさらに5年後の例えば次の総合計画に載せようとする、5年間でマイナス4億円という計算になりますが、これは目標とし

てよいのか、考え方など教えていただきたいと思います。

(事務局)

現状を考えると、20 億円という設定もなかなか難しい状況ではありますが、この 20 億円という数値は、本市の財政規模から見て、適正な額であることから、これを目指すということになります。

(会長)

この財政調整基金残高は、左側の図のどの部分を見るとそれが分かるでしょうか。基金残高の推移（普通会計決算状況）の図を見ますと、90 億、86 億、85 億、81 億となっており、今後も減少傾向となるのかもしれませんが、それでもやはり 50 億、60 億あるように見えます。

(事務局)

左側を見ると、青いバーのところが財政調整基金の表になっておりまして、震災復興からの経過によって、年ごとに、特に最近では減り幅が大きくなってきているということもあり、この令和 6、7 年の部分については圧縮されているという状況ではありますが、予算決算もあるので整理させていただきたいと思います。

(委員)

41 ページの第 2 節、持続可能な社会を目指すごみ減量化と資源循環の推進の中で、プラスチックの分別収集についての業者が決まったという記載があります。プラスチックは燃焼カロリーが高いので、リサイクルすることはよいのですが、一方で焼却炉に入れたときに余計な助燃剤が必要ありません。そのため、プラスチックをリサイクルするために、焼却するごみからプラスチックが取り除かれることで、ごみの焼却に化石燃料を使う必要が生じるようでは本末転倒ではないかと思います。普通はカロリーの高いものを取り除いたときに、カロリーの低い生ごみなどへの取組も両輪で進めていかないと、地球に優しいどころか、二酸化炭素の大量排出につながっていきかねないと思います。例えば生ごみに関するこれまでの取組では、生ごみ減量容器の購入補助とありますが、これだけでは不十分だと思います。最近だと、微生物を利用したコンポストであったり、その他にも仙台市ではすでに始まっているようですが、生ごみを発酵させてその過程で出てくるバイオガスで発電をするという取組もあります。石巻市の取組では持続可能な SDGs から離れているように思います。

(事務局)

この計画の部分については、今のご意見を踏まえての主な取組における今後の展開ということになると思います。プラスチックだけではなく、生ごみも両輪というふうな御意見のものについては、例えば、生ごみについては施策 1 のごみ減量化、プラスチックの部分については施策 2 の再資源化など、主な取組の部分に表現が加われば、将来に向けた計画ということになっていくと思うので、課題として庁内で検討の上、表現できるように進めていきたいと思います。

(委員)

83 ページの施策 1 について、KPI の石巻専修大学と管内高校生の管内就職率の管内というのは、石巻市だけではなく東松島市や女川町も入るのか、つまり 82 ページの失業率の比較の図には石巻市、東松島市、女川町が記載されていることから、83 ページの管内は 2 市 1 町を捉えているのでしょうか。そうすると、石巻市については、どのように捉えたらよいのかということ教えてください。併せて、その指標のところは、石巻専修大学、次が管内の高校生とするならば、学生・生徒という表現にしてもいいのではないのでしょうか。また、大学生について、現状値の 7.9% から 5 年後の目標値が 8% という数値が適切なのかということも伺います。

(事務局)

指標の現状値及び 5 年後の目標値については、根拠を持った説明ができなければならないと思っておりますので、現状値を踏まえて、最終案の中では明確に設定し、説明ができるようにしていきたいと思えます。管内高校生、石巻専修大学の記載方法については、整理をさせていただきます。

(委員)

資料を先週郵送で送っていただき、当日持参するようにとのことでした。この資料の全てについてこの場で意見するというのであれば、会議当日に御持参いただきますようお願いいたしますではなくて、会議当日までにこの資料 1、2 をお目通しくださいなのではないのでしょうか。あるいは特に専門とされる分野に関しては、御意見をいただきたいので、御覧の上、出席くださいというようなお願いをしていただけると、私もそのつもりでこの場に参加しますが、今ここで全体について意見を出すことが難しいです。私は本を作る仕事をしていますので、専門的な内容を申し上げると、印刷物としては行と行の間が狭すぎるので非常に見にくい資料になってしまっていると思えます。

(事務局)

今日の会議に関して、こちらの意図としては、説明をする資料としてお出しする中間案について御意見をいただきたいということなので、御一読いただき、当日御意見を頂きたいというふうなのが趣旨だったので、今後の反省点といたしまして、配布の日付と依頼文書の内容を改めさせていただくなど工夫をしたいと思えます。

(会長)

枠の色等も含めて、最終版までには見やすいように調整していただければと思います。

45 ページに関して、すべての KGI について目標値を入れなければいけないというわけではないことは理解しており、それはそれでよいとは思いますが、住環境の中で「歩道」が非常に重要だということが書かれているので、歩道に関する KPI 等を入れてもいいのかなと思いましたが、ここで抜けている理由を教えてください。

(事務局)

現時点では審議会等で説明をしたとおり、客観的指標でなかなか適切なものがない

という背景があり、このようになっていますが、歩道の部分については、御意見をいただいたので内部で調整して考えたいと思います。

(会長)

お帰りになってもう 1 回御覧いただいた上で、お気づきの点等があれば、事務局にメール等で連絡いただければと思います。

③第 3 編について

(委員)

118 ページのイクボス宣言の企業数について、5 年後の目標が 10 社というのは消極的な数字だと思いました。イクボスはなかなか増えていない印象ですが、目標値の理由を教えてくださいませんか。

(事務局)

現状値 24 社は単年度の宣言した企業数となっています。5 年後の目標の 10 社も単年度の目標数となっているので、24 社から 10 社ということで数値だけを比較すると、下がっているように見えますが、積み重ねていった結果というところで、分母の企業数自体は変わらないので、先に進めば進むほど達成度が難しくなってくるということで、ここの部分については単年度の表現にしていました。最初の橋本委員の意見のように累積と単年ということで、分かりやすい表現に改めたいと思います。

(委員)

121 ページの 6 行目に「市内高校生の卒業後」、8 行目には「市内高等学校と連携」という文言があり、KPI を見ると「管内高校生」という文言があり、整合性がとれないのではないかと思います。また、127 ページの KPI に記載されている目標指標のところで、「学校が楽しいと感じている生徒の割合」と記載されていますが、「生徒」という文言から考えると、これは中学生を対象としているのでしょうか。下の欄に記載の「全国学力学習調査」は「全国学力・学習状況調査」が正式名称なので、訂正していただいたほうがいいと思います。なお、小学 6 年生と中学生が対象であれば、「児童生徒」ではないかと思います。

(事務局)

121 ページの部分については、市内、市外、管内という表現が混在しているので、先ほどの質問同様、整理をさせていただきたいと思います。それから、127 ページの部分は「全国学力・学習状況調査」という正式な表現に改めていきたいと思います。児童生徒という文言についても確認し、正式な表現に改めさせていただきます。

(委員)

133 ページの災害に強いまちづくりを推進するという施策 4 について、災害に備えて備蓄をしている家庭の割合が単年 14.98%と記載されていますが、この数字は正しいのでしょうか。昨日の新聞において、東北とか各県別の意識調査が一覧で記載されていましたが、このような数字ではなく、宮城が最も高かったと思います。また、防

災訓練の参加率といいながら、現状値は人数になっています。また、297 人しか参加していないことになってますが、桁が間違っているような気がするし、ページ全体で整合性がとれていないように感じます。

(事務局)

御指摘の部分は誤植となり、正しくは「災害に備えて備蓄をしている家庭の割合を現状値 49%に訂正いただきたいと思います。また、目標値についても、最終案に向けて正しいものにしていきます。また、「防災訓練参加率」については人数ではなく、パーセントの数字になっています。現状値については、12.98%となっているのでこの辺についても精査をさせていただきたいと思っています。

(会長)

御指摘部分の元データは 27～28 ページに記載されています。27 ページを見るとお話頂いたように現状値は 49%、目標値は 70%、防災訓練の単年の参加率は現状値が 12.98%、目標値が 20%ということで、少し上下したのかもしれないので御確認いただければと思います。

(委員)

131 ページの施策 2 の基本方向部分に記載されている、「心身形成」という四字熟語についてはあまり聞いたことはありません。心身ともに健全育成などの文言だと分かりますが、あまり使わない表現なので、「心身形成」をふさわしい文言に変えていただきたいと思っています。

(事務局)

「心身形成」という文言については、改めさせていただきたいと思っています。

(委員)

121 ページの地元の定着推進を図るという部分で、専修大学や管内の高校生の就職率という部分を挙げていますが、これは総合計画なので、石巻にもっと就職をしてもらいたいとか、そのような部分がこの計画の中にうたわれてないと思います。例えば UIJ ターンで人数を増やしていくなどの考えも必要だと思います。それから前回も少しお話ししましたが、今、人手不足感があって、外国人の労働者が多く入っています。今後、そうしたことも含めて、女性や高齢者、外国人などの割合を増やしていくというような方法で、就労者を増やしていくという視点が抜けているように感じたので、どうなのかということについてお聞きできればと思います。

(事務局)

施策につきましては若者の地元定着という分野になりますが、KPI についても 20 歳から 39 歳までにターゲットを絞った形にしております。御指摘いただいた女性という視点も重要ですし、取組の中に UIJ ターンのようなものがあるのもよいと思いますので、いただいた意見を踏まえ、表現を工夫させていただきたいと思っています。

(委員)

120 ページで、立地企業件数が現状値 5 件から目標値 10 件とあり、116 ページでは

「市の事業による新規創業及び第二創業件数」が単年 11 件となっていますが、例えば、この企業立地件数というのは、産業ゾーンなどに新しく建てる人のことを指しており、わざわざ「市の事業による」と限定している「新規創業第二創業件数」というのは、いわゆる市街地部や街なかなどの件数のことを指すのか、関係性がよく分からないので教えていただければと思います。

(事務局)

120 ページの立地企業件数につきましては、施策のところにもあるように地方の移住移転というところなので、企業に外から入ってきて立地していただいた件数となっています。116 ページの創業については、地域の産業ということで、継承なども含んだ数という整理をしております。

(委員)

概要版について、今回、人口戦略ということで、ある意味では、人口戦略を総合計画の中で一番大切にされていて、この人口戦略の国や県の動向を見ながら、各種施策を組立てているということだと思います。概要版の 16 ページに人口戦略の推進でデジタル田園都市国家構想、地域ビジョン（石巻市が目指す理想像）があり、国のデジタル田園都市国家構想の施策が並び、県の将来ビジョンが並び、1 番右側に本市人口戦略の対応方針 1～4 があって、真ん中にデジタルの力を活用という書き方がされていますが、この左側と右側がデジタルの力を活用してどのようにつながるのかがよく分かりません。左側をデジタル化すると右側になるということだと思いますが、つながらないのではないかと思います。

(事務局)

16 ページの概要版の真ん中にデジタルがあり、その右側の人口戦略につながっているという部分については、今後はあらゆる分野にデジタルという視点が必要となってくるということであり、この視点のもと取り組んでいかなければならないということになります。人口戦略については、主な取組の部分に、今後、デジタルを活用した取組が盛り込まれれば、より分かりやすくなると思われます。

(委員)

取組で何か分かるようにしていただけるといいかなと思いますが、こういう体系になっているのでこうせざるを得ないのかなという部分はありますが、個別の目標指標とかでも、デジタルが関係ないようなものも入っていると思いますので、そこはうまくつながるようにしていただけたらいいと思います。

(会長)

人口戦略の意味が何かというところで、基本的に人口戦略で書かれていることはその前に大体書かれていることを再構成して、人口戦略に位置づけるということになっていますが、その意味はどこにあるのでしょうか。

(事務局)

この内容については、計画として掲げなければならないということが前提としてあ

り、その中でも最重要課題の一つが人口減少なので、その部分については、第1章から第6章のくくりではなく、分野横断的な戦略として取り組むという部分になり、あえてこのような表現をしているものです。

(事務局)

私からも少し補足しますが、国が地方創生を推進する上で、総合戦略、これは宮城県も作っており、各自治体でも、地方版総合戦略を作るように国から指示されています。これを作らないと、国の交付金を活用できません。そういう条件のもとに、総合計画と一体的に策定することで、自治体の負担を減らすようなものになります。以前は別冊で作る必要がありましたが、その後総合計画と一体的に策定することが許容されたことにより現在に至ります。

(会長)

必要があるので作るということはよく分かりました。総合計画と人口戦略が、下の下ではつながっているようですが、そのことが分かりづらい部分もあるかなという印象を受けましたので、重要施策との関係性をもう少し明確にしていきたいです。細かい話ですが、様々なところで指標が同じになっているなか、ずれている指標もあるのでもう一度確認いただきたいと思います。例えば「市の事業による企業立地件数」も、人口戦略ではただの立地件数になっていました。市の事業によるほうが少ないはずなのに、全体のほうが少なくなっていたりなど、数値を再度確認いただければと思います。

④第4編、第5編について

(委員)

この施策展開の方向性は、5年前に作っていますが、最初に作ったときと何も変わっていないということでしょうか。人口の推移や満足度調査の結果等、石巻市全体の内容とあまり違いがないということであれば、この取組により、市全体の結果が向上することにもつながると思いますので、全体的にもう少し内容を丁寧に書いていただいた方が良いのかなと思います。

(委員)

地区の特色に記載された施設は、市の施設のうち市が直接管轄しているものだと思いますが、ホームページなどで全国あるいは世界に発信していくのであれば、石巻赤十字病院や石巻専修大学が震災後のボランティアセンターとしての役割をはたしていたことや石巻グランドホテルなど、震災との関わりを強調すれば、もう少しいろいろ書けるのではないのでしょうか。

(会長)

公共施設に限定した理由を教えてください。

(事務局)

記載範囲の整理が難しく、公共施設のみの掲載としました。

(委員)

ギネスに掲載された石巻魚市場なども世界に発信できるのではないのでしょうか。

(事務局)

魚市場や南浜マリーナなども記載されていないので、本庁地区や総合支所の地区も含めてブラッシュアップしたいと思います。

4 その他

(委員)

資料2の3ページに「一人一人が多彩に煌めき共に歩むまち」と将来像の記載があり、資料1の5ページでこれを受けて、第1章～第6章まで施策体系が作られてあり、さらに目指す姿として細節がありますが、下にいくほど総花的になって、石巻の目指すものが何なのか分からなくなっているのではないのでしょうか。必ず原点に返って、石巻が目指す方向を定めたうえで、その実現のためにそれぞれの施策があるということを押さえておかないと、一生懸命様々な個々の施策に取り組んでも、目指す方向が実現できなくなってしまうという危惧があります。常に原点に返り、施策がどう活かされるかということを考えながら計画を作り、そして実行していったほしいと思います。

(委員)

資料1について、概要版は広く市民の方に配布されるものになると思いますが、2ページの市の現状がコンパクトに文章にまとめられています。市の現状の中で、例えば教育分野の「全国平均を下回る学力水準」については、学力のとらえ方が点数だけでいいのかということも含めて検討する必要があるのではないのでしょうか。全国平均からある特定の学年が僅か1ポイント程度低いということだけで、マイナスの発信をしていいのか少し気になるところです。実はプラス要素のあるマイナスではないかと思われます。また、6ページ以降読み進める中で、「子ども」や「取組」などの表記が統一されていないところがあり、確認したほうがよいのではないかと思います。

(事務局)

子どもなどの表記については統一する必要があると思うので、見直しを行いたいと思います。また、市の現状の御指摘いただいた部分についても表現等工夫して行きたいと思います。

(事務局)

今後のスケジュールについては、7月中に庁内検討を複数回実施後、最終案を8月上旬に審議会にお示しする形で開催をさせていただきければと思います。御指摘いただいたように資料の配布等については、早めに送付し、確認いただいて御意見をいただくことで、最終的には8月25日に市長への答申を予定しております。

5 閉会あいさつ

(副会長)

皆さん長時間御苦勞様でございます。今日も冒頭から、いわゆる資料を読み、事前に読み込んでくる時間がちょっと足りないという話もありましたので、市の皆さんにおいては、毎回この枚数を印刷するというのも大変な作業だと思いますが、御理解をいただきながらも少し早めに用意していただければ、事前に読みこんでくる時間が作れると思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また委員からお話があったところで、同感の部分がありました。総合計画をつくるにあたって、市の課題解決型の企画、計画になりがちですが、その前に石巻はとても良いまちだということを、根本で据えるべきだと思っております。例えば地価が安いですね。石巻の駅前やこの辺りは高いかもしれませんが、立町の奥に行くと比較的安価で買えます。それで、仙台に通勤するとしたら始発駅ですから座れて寝ていけるというような、いわゆるベッドタウンとしての機能をこの石巻というのはものすごく持っているまちだと思いますし、医療に関しても、石巻っていうのは本当に拠点病院がたくさんあります。中堅規模の病院も、民間を踏まえてたくさんあるので、宮城県の中でも、仙台に次いで、安心して暮らしていけるまちだと思います。そういったことも踏まえてどこかで、これだけ石巻が頑張っていて、いいまちだということを踏まえてさらによりよくする、というような視点があってもいいのかなと思っておりました。

これは全体的なところで、個別のところでは、新規の企業誘致は大切なことで否定はしませんが、その一方現在石巻で頑張っている既存の企業をどう応援するかというところに、もう少し支援の項目があってもいいと思います。個人的な話になりますが、昨年はちょっと私どもの仲間の会社が駄目になるなど、残念なことがあったものですから、頑張っている人を応援するというスタンスはあってもいいかなというふうに感じております。その一方で人口減少というのは1番大きなテーマですが、これは日本全国踏まえて、この課題に抗うことができる都市は東京以外には多分ないのだろうと思います。その中で行政の計画は、人口がシュリンクしていくということが数値でもグラフでもはっきり出ており、もう8万人というようなちょっとショッキングなデータも出ておりますが、そこを見据えて、それでもなおかつ住み続けたいまちだという市の将来像をこの総合計画に書けるかという和多分、書けないだろうというふうに思いますが、これの別バージョンで結構ですから、今から考えておかないと、これが10万人、9万人あたりまで減少した後、そこから考えるという状況ではもう手後れというようなことになりかねないので、長い目で見ていくということは必要だと思います。そういう意味でここにお集まりの皆さんはそういうことを行政の皆さんとお話をするチャンスを与えられているわけでございますから、いろんなスタンスで総合計画に御意見を今後も賜ればというふうに思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。今日はありがとうございました。

(委員)

今回の計画も含めいつもそうですが、細部ばかりで、全体が見えなくなってきていると思います。もうちょっと大きな面で、ブロック単位で物事を見ていくという視点が非常に大事です。例えば、行政の産業誘致の件ですけれども、ある企業が震災により被災した際、他県からとても有利な条件で企業誘致があり、そちらに移転する方向で話が進んでいるが、従業員は石巻に戻ってきたいという話があり、私が東京の本社まで訪問して石巻で操業することのメリットを説明し、引き続き石巻市で操業していただくこととなった案件がありました。このように産業誘致を行うには、行政と民間であらゆる手を考え、知恵を出さないと、うまくいきませんが、当時は行政から何の相談もありませんでした。点で考えるのではなく、全体像の中での議論をしていかないと、何か重箱の隅をつつくような形で、全体像を見たらちぐはぐになってしまうと思いますので、もう少し見直す勇気を持って執行部は考えてほしいと思います。以上です。

石巻市総合計画審議会委員名簿

No.	氏 人	所 属	備 考
1	姥浦 道生	東北大学災害科学国際研究所	出席
2	横江 信一	石巻専修大学	出席
3	庄司 昌彦	武蔵学園データサイエンス研究所 / 武蔵大学	欠席
4	伏見 不二雄	石巻市町内会連合会	欠席
5	井上 達彦	石巻市防災士協議会	出席
6	遠藤 一恵	石巻市女性活躍推進会議	出席
7	宇角 安弘	特定非営利活動法人 いしのまき環境ネット	出席
8	林 久善	社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会	出席
9	木村 民男	石巻市子ども・子育て会議	出席
10	尾形 輝雄	石巻商工会議所	出席
11	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
12	加納 美雄	いしのまき農業協同組合	出席
13	後藤 宗徳	一般社団法人 石巻観光協会	出席
14	橋本 丈史	株式会社 街づくりまんぼう	出席
15	阿部 隆	特定非営利活動法人 石巻市スポーツ協会	欠席
16	伊藤 桂子	石巻市社会教育委員会	欠席
17	大森 憲市	石巻市PTA協議会	欠席
18	花岡 徹	石巻金融団	欠席
19	日野 淳	株式会社 口笛書店	出席
20	大石 剛史	東北福祉大学 教授	欠席

オブザーバー

1	畑山 作栄	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所	出席
2	武田 健久	宮城県東部地方振興事務所地方振興部	出席

令和7年6月12日現在（敬称略）